

めくる、めぐる、富山のしあわせ

# とやま日季

につき

2013 夏秋号

とやまブランドものがたり「高岡銅器」

特集 とやま暮らし日季

黒部市／清河北斗さん、典子さん

とやま対談

国際日本文化研究センター名誉教授 山折哲雄

富山県知事

石井 隆一

とやまを観る旅 立山弥陀ヶ原・大日平

くらしたい国、富山

極上をあなたに。

とやまブランドものがたり



KANAYAの、テーブルやトレイ、マガジンラック、カップ、ジュエリートレイ、靴べら、スマールポット、フラワーベースなど。  
いずれも洗練されたデザインが人気だ。

## 高岡銅器

日本最大の青銅器産地、富山県高岡市。400年にわたって受け継がれた技は、茶器や花器、香炉、仏具のほか、銅像や梵鐘づくりなどに生かされ、見る者、触れる者の心を静かな感動で満たします。

高岡銅器は高岡を開町した加賀藩二代藩主の前田利長が慶長16年(1611)に、7人の铸物師(いもじ)を千保川の左岸、現在の金屋町周辺に移住させ铸物工場を作つたのが始まりです。当初は鍋や釜、鋤などのほか、社寺用の灯籠など、铁铸物を作つていたと言います。

江戸中期には銅製の仏具や花器、香炉などが製造され、販路は全国に拡大していきました。明治期にはさらに技術が向上し、万国博覧会を通して世界に紹介されると、美術銅器は輸出品として人気となりました。

現在でも伝統に培われた铸造、仕上げ、着色などの技を活かしながら、現代の暮らしに合った新しいデザインの商品が開発され、ヒット商品も数多く誕生。国内ばかりでなく、海外の見本市でも高く評価され、販路は世界に広がりつつあります。

一昨年には、高岡銅器協同組合の13社の有志が集まり、「KANAYA」ブランドを立ちあげました。国のJAPAN

ブランド育成支援事業に採択され、国内外で活躍する気鋭のデザイナーとのコラボで新感覚の商品を生み出しています。パリで開催されるインテリアの国際見本市「メゾン・エ・オブジェ」に出展し、大きな反響を呼んだほか、今春、高岡銅器発祥の地である金屋町にショールームをオープンしました。

高岡銅器協同組合理事長でKANA Y A代表の駒澤義則さんは、「この伝統の地、金屋から情報発信していくことは大きな意義があります。いまの生活に合った商品を、これまでのものづくりの常識にとらわれないデザインで開発していく」と意気込みを語ります。高岡銅器のブランド力を、さらに上げる高岡銅器の新しい動きに、大きな期待が寄せられています。

魅力ある富山県产品の中でも、とくに自信をもって誇れる極上の产品を「富山県推奨とやまブランド」に認定しています。豊かな自然と歴史、人々の知恵や文化を背景とした、富山の魅力の象徴として、国内外へ発信しています。

お問い合わせ:富山県観光・地域振興局地域振興課  
TEL 076-444-9605  
<http://toyama-brand.jp>





400年の伝統と、  
一人ひとりの美意識で、  
新しいものづくりへ。

高岡銅器の制作工程は、デザインに基づき原型を制作。その後、銅や錫などを坩堝(るつぼ)で溶かした高温の「湯」を型に流し込む鋳造へ。型から取り出し、仕上げ、研磨、着色や彫金をおこなう。着色には、「おはぐろ」「青銅色」など古代色と呼ばれる伝統的着色法がある。すべての工程の職人の力が結集してはじめて高岡銅器が生まれる。



こころも、ゆきり  
とやま  
草木、らい  
日季子

工房近くを流れる黒部川。山の風景と一緒に、四季折々の変化が美しい。モトクロスが趣味の清河さんは、息子さんと自転車で河原にでかけることが多いとか。

# 故郷から、 独自の世界を発信 注目の造形作家。

—— 黒部市・清河北斗さん 典子さん

## 独立と子育てを考え、 ふるさとへ。

富山県黒部市宇奈月町（うなづきまち）。青く澄んだ黒部川が流れ、宇奈月温泉や黒部峡谷鉄道の出発駅があるまちとして知られています。自然の美しさと迫力を間近に感じられるこの地を拠点に、造形作家として活躍しているのが、清河北斗さんです。

清河さんの工房を訪ねると、現れたのは、馬と人が一体となつた巨大な「卵性双生馬人」。奥には象のバイクにまたがる「象驅輪金剛力士座像」があり、その圧倒的存在感で人を驚かせます。

清河さんは1974年、旧宇奈月町生まれ。両親とも美術作家という環境で育ち、東京芸術専門学校卒業後、都内の造形会社に10年間勤務。舞台美術や、

イベント造形、アニメキャラクターの立体像などを数多く手掛けできました。仕事に打ち込み、職場で指導的立場になつた清河さんは、やがて独立を決意。故郷に戻るきっかけは、妻の典子さんとの間に長男が誕生したこともありました。

「仕事が深夜になることが多く、通勤を考えて都心に住んでいましたが、子どもには、自分がそうであつたようないい思い出がありました。仕事はある程度メールでやり取り可能ですし、東京にこだわる必要はないですからね」妻の典子さんは高知県出身。都内の大工で金工を学び、ジュエリーデザイナーとして働いた後、結婚を機に退職。長男が誕生して以来、新たな暮らしの場を模索していました。





材料の発泡スチロールをニクロム線で切り取る清河さん。  
弓のような道具は、作品の大きさに合わせた手作り。シンプルな素材が、驚くような異形へと変貌していく。

## 想像以上に次々と仕事の依頼を受けて

帰郷後、富山市民に親しまれているお祭りのひとつ、山王祭りで、「象驅輪金剛力士座像」を展示したことからはじめ、清河さんは次々と仕事の依頼が舞い込むようになります。

「最初は富山で、これほど造形の仕事があるとは想像していなかつたので、本当にありがたいことです」

富山発のミュージカル「回転木馬」の舞台美術や、高岡銅器で作られたデビューマンのブロンズ像の原型制作。パリで開かれたジャパンエキスポには「一卵性双生馬人」を出品。最新作は、「獣驅輪水平式低床型骨相像」と題した生

「初めての子育てで親も近くにいないですし、正社員でないと保育所に入れられず、当時は辛かったですね」

そこで、5年前に子育てや仕事場の条件が整った北斗さんの実家へ。その後、長女が生まれ、両親と北斗さん夫婦、子どもの6人家族になりました。

「自宅そばに広い工房も借りて、保育所も近く、のびのびと子育てができます。本当によかつたと思います」

物の骨を模した車の作品で、県内の展覧会に。同時に個展も開催するなど、目覚ましい活躍を見せて います。

広い工房内には、これまでに制作した作品が並びます。好きなバイクを生き物に見立てたり、仏像と組み合わせたばかり。その一方で、確かな技術や経験から、有名なキャラクターの立体像の制作にも数多く携わっています。

「オリジナル作品も含めて、見た人に面白いとか、高揚感を感じてもらえるようなアミューズメント的な感覚を大事にしています。好き勝手にものを作るのでなく、クライアントの人となりや、その思いをよく理解すること。さらに、お客様の思い、置かれる空間などを、あらゆる角度から検討して制作します。見た人が明日への活力になるようなものを作りたいです」

いつもユートラルな状態に自分を置きながら、今後もさまざまな作品や人と出逢いたいと話す清河さん。最近は、東京からの仕事の依頼も増えているとか。1年半後に北陸新幹線が開業すれば、東京・黒部間は、わずか2時間。さらに忙しい日々が続きそうですが。



まずは、モチベーションを上げる朝の曲選び。激しいビートが工房に響くなか、特別に注文した、しなる包丁や手製の弓をつけたニクロム線などの道具を駆使して、発泡スチロールを自在に削っていく。手書き、手仕事にこだわる理由は、「一番リアルで、リアルに伝わるものになるから」と語る。



工房内にはオリジナル作品や仕上がりの10分の1の原型などが置かれている。バイクと動物、仏像などとの融合で生まれる独自の世界。「ダークヒーロー的かつこよさ」と表現する清河さんならではの作風だ。



工房内で依頼主と打ち合わせ。迫力ある作品をイベントの目玉として展示したいという依頼が県内外から届く。この日のお昼は、典子さんと一緒に中華料理の店へ。典子さんは発泡スチロールを磨いたり、布を使った作品づくりに活躍。工房周辺にはのどかな田園地帯が広がる。朝晩の山の景色も美しい場所だ。

A day in the life of TOYAMA

## ある1日のとやま日季

清河さんのある1日を教えてもらいました。



朝は3時か4時頃に起きることが多いという清河さん。仕事は夕方6時か7時頃まで。夜はお子さんに絵本を読みながら、一緒に9時頃には就寝。早朝のうちに自宅で見積りを書いたり書類を整理。デザイン画を描くことや、粘土の原型をつくることが多い。



9時前には工房に入り、基本素材となる大きな発泡スチロールを削っていく。10時頃から妻の典子さんも加わり、発泡スチロールの磨きなどを担当。典子さんは金工をしていた経験から、ものづくりは得意で、工房内の木製の棚などはすべて手作りという腕前。



自宅は工房のすぐそばだが、お昼に自宅に戻ってしまうと制作の緊張感が途切れてしまうため、工房内でうどんなど簡単なものを作って食べたり、近くのお店に行くことも多い。この日は、中華料理のお店で、好きないつのメニューを注文。



イベントに設置する作品について、依頼主と打ち合わせ。北斗さんは、依頼主の人となりや、思いを直に聞いてさまざまなことを感じ取り、お客様の動き方や会場の条件なども綿密に考慮して作品づくりに反映するため、この工程が作品づくりに何より重要だ。

きよかわ ほくと  
富山県黒部市宇奈月町生まれ。東京からUターンし、STUDIO/HOTを設立。舞台やイベントの造形制作の一方、「獣駆輪」シリーズなどを発表。パリのジャパンエキスポでも作品が展示され、いま注目を集める造形作家。  
<http://www.studio-hot777.com/>



## とやま暮らし 便利雑季

黒部市



建設中の黒部宇奈月温泉駅

### 2015年春 北陸新幹線開業予定

#### 新駅名決定 黒部宇奈月温泉駅！

今年6月、2015年春に開業する北陸新幹線の黒部市内の新駅の名称が「黒部宇奈月温泉駅」に決定します。ますますカウントダウンモードが高まりました。新駅は、富山の親交の玄関口として、「名水、名勝、名山、名産」の4つの魅力が満喫できる周辺地域とともに、来訪者が何度も訪れたくなる地となるよう、利用者・地域の方に愛される駅を目指します。東京から、乗り換えなしでぐっと近くなる黒部市。観光に、ビジネスに、暮らしの場所に、環境作りが進んでいます。

●お問い合わせ:黒部市企画政策課  
TEL 0765-54-2111  
<http://www.shin-kurobe.jp>

## 暮らしの支援

### 長期間の留守中に、 家屋のメンテナンス

黒部市シルバー人材センターでは、市内に半定住されている方、家屋をお持ちの方が、長期間留守にされる場合、家屋の清掃や庭の除草業務などをを行っています。

●お問い合わせ:公益社団法人 黒部市シルバー人材センター TEL 0765-52-4777

### 屋根雪融雪装置 設置費補助

屋根雪下ろしの負担軽減や危険防止を図るため、黒部市中山間地域の住宅などで、100万円以上の屋根雪融雪装置の設置に対し30万円(一律)補助します。(補助対象については黒部市のHPか下記にお問い合わせください)

●お問い合わせ:黒部市役所都市計画課  
TEL 0765-54-2111



## 短・中期滞在型の 交流滞在施設

### 一人一泊、1,000円で 黒部の暮らし体験

まち起こしを目的として設立された「生地(いくじ)ふるさと暮らし推進協議会」では、短・中期滞在型の貸家「住・定・夢の館(ジュームのやかた)」を一人一泊、1,000円でご提供いたします。(中学生以下は無料)近くには日本名水百選「黒部川扇状地湧水群」の湧水が湧き出ており、観光施設「魚の駅・生地」も近接しています。美しい日本海がみえる街でしばしの時間を過ごしてみませんか。

●お問い合わせ:生地ふるさと暮らし推進協議会  
TEL 0765-57-1011  
<http://blogs.yahoo.co.jp/ikujifurusato>

## 「黒部市」までのアクセス方法

### ●自動車で

関越自動車道・藤岡JCT—上信越自動車道・上越JCT—北陸自動車道・黒部IC

### ●JRで

東京—上越新幹線・越後湯沢駅(1時間15分)—北陸本線・黒部駅(特急はくたかで約1時間50分)

### ●飛行機とJRで

羽田空港—富山空港(1時間)—連絡バス・富山駅—JR北陸本線・黒部駅(約1時間)



ここから、  
あたらしい富山へ。

## とやま対談

国際日本文化研究センター名誉教授

富山県立山博物館顧問

### 山折哲雄



富山県知事

### 石井 隆一

国際日本文化研究センター名誉教授で

富山県立山博物館顧問の山折哲雄氏を迎える

石井隆一富山県知事が、

立山信仰の成り立ちや

その特徴について伺いました。

また、富山の自然、風土を生かした、

これから求められる教育についても、

話は展開します。

石井 隆一

### 山岳信仰が考え方の基礎

石井 今日は遠路、富山県、立山町までお越しいただき、ありがとうございます。

また、立山博物館の顧問として、10年近くご指導いただくとともに、このたび立山博物館の別館として開設した「山岳集古未来館」の名称についても大変良いご助言をいただき、感謝申し上げます。この立山博物館は平成3年の



開館以来、県内外から約200万人の方々にご来館いただき、立山の自然、風土や、それを背景とした立山信仰に関する調査研究、展示・紹介に取り組んできました。かつて立山芦嶺寺で行われていた「布橋灌頂会」も一昨年、20周年記念事業として実施し、全国各地から約75人の女性に参加いただき、見学者も約3千人集まりました。また、この「山岳集古未来館」では、立山・黒部を舞台にした明治以降の登山史に関する文

献、映像、山道具や、立山信仰の歴史を受け継ぐ芦嶺寺の宗教景観の展示、収蔵などを行います。まず、立山博物館についての評価や課題などについて率直なご意見をいただきたい。

山折 最近、富士山が世界文化遺産に登録され、大変喜ばしいことですが、問題も噴出しています。登山については、日本の千年の歴史のなかで、長く続いてきた信仰登山から近代登山、観光登山へと3段階の変化をしてきました。観光登山が増えることで、本来の信仰登山の性格が忘れられがちです。立山も多くの観光客に訪れてもらうことは必要ですが、同じ課題があります。

立山信仰の基盤になっている山岳信仰は、山に対する信仰をベースに神道や密教、道教など、さまざまな信仰が混合して発展したもので、日本人のものの考え方の基礎となるものです。この山岳信仰を明らかにすることを通して、立山信仰がどういう特色を持つかを考えることが大事かなと思つています。富山県の立山博物館では、最初の設計段階からそう考えて、教界、聖界、そして遊界という、三世界を打ち出して事業展開されており、非常に面白い試みだと思っています。

# 石井 立山博物館の設計の考え方は、

現されているのではないでしようか。

建築家の磯崎先生から、昨年、拝聴し理解が深りました。さて、一昨年の立山

博物館の設立20周年の際の記念講演で、先生は、「東日本大震災の被災者の方々は、諸外国での地震等の被災者と比べ、悲しみの中でも冷静な行動をしていた。これは、日本はもともと地震などの災害が多い国だから、日本人はいわば天然の

取り巻き、自然はほとんど描かれていません。一方、日本の曼荼羅は、必ず山を中心には描かれていて、そして、仏の世界と神の世界をすみ分け、自然と一体化して描かれて います。その象徴が立山曼荼羅です。

## 山の体験は人生の体験

上こそが浄土だとしました。立山にも  
淨土山や弥陀ヶ原などがあります。山  
に神と仏の世界が共存するという考え方  
方が、日本の神仏習合の考え方のもと  
になつたのではないかと思つています。

は、諸外国での地震等の被災者と比べ、悲しみの中でも冷静な行動をしていた。これは、日本はもともと地震などの災害が多い国だから、日本人はいわば天然の無常観みたいなものを見付けるに至ったのではないか。また、曼荼羅は、もともとインドから始まったが、同じ曼荼羅でも日本、特に立山の曼荼羅は随分違う』というお話をされました。

**石井** 日本人はまず、山や深い森を信仰の対象にしてきていて、そこに仏教が後から入ってきました。このため、それが以前の山岳信仰を、少し修正した形で、仏教を受け入れているということでしょうか。

たとき、日本列島の災害は、凄まじい破壊力を持つていて、そのことを痛感しました。しかし、災害が過ぎ去ると再び美しい自然が甦るのであります。すごい破壊

力を示す自然と美しさを甦らせる自然。こういう二面性を持つて いる国は、とりわけ先進国では、日本くらいかなと思つています。

立山曼荼羅は、地獄の世界を描いた  
曼荼羅だと言われていますが、もしかす  
ると、日本列島が何千年、何万年の間に  
受けてきた自然の災害破壊力をあの地  
獄の景観のなかでそれとなく映し出し、  
その上で救い、浄土の思想が同時に表

現されているのではないでしようか。

インドの曼荼羅には、中央に大日如来が描かれ、諸菩薩、諸人が同心円状に取り巻き、自然はほとんど描かれていません。一方、日本の曼荼羅は、必ず山を中心には、森が描かれて、そして、仏世界と神の世界をすみ分け、自然と一体化して描かれています。その象徴が立山曼荼羅です。

**石井** 日本人はまず、山や深い森を信仰の対象にしてきていて、そこに仏教が後から入ってきました。このため、それ以前の山岳信仰を、少し修正した形で、仏教を受け入れているということでしょうか。

**山折** そのとおりです。日本人の信仰の一一番ベースのところに山岳信仰があり、そこへ仏教が入ってきて、山岳信仰と融合を遂げ、新しいハイブリッド宗教をつくっていくことになります。

私の仮説ですが、富山県と縁が深い大伴家持の『万葉集』には、死者を悼む挽歌がたくさんあります。その中で、人間が死ぬと、魂が山に登つて行き、山頂近くで神になるという信仰が表現されています。そこへ仏教が入ってきましたが、インドの浄土教では、人間が死ぬと西方10万億土の彼方に行くと考えています。日本人は、これを読み替え、山の頂

上こそが浄土だしました。立山にも淨土山や弥陀ヶ原などがあります。山に神と仏の世界が共存するという考え方、日本の神仏習合の考え方のもとになつたのではないかと思つています。

## 山の体験は人生の体験

**石井** 最近、ふるさと教育に力を入れています。富山県が、明治十六年に誕生した頃は、災害も多く、全国でも貧しい県だったといわれますが、今日では住み良さなど多くの点で、全国トップクラスの高い評価を受けるようになります。これは、幾多の先人がふるさとのために困難を乗り越えて尽力され、成果をあげていただいた賜です。こうして優れた先人を紹介するため、小中学生向けには「ふるさとやまの人物ものがたり」を、高校生向けには、郷土史と日本史の補助教材を作成し、授業の中で活用してもらっています。また、最近の子どもたちにもつと山や森などの自然にふれてほしい、との思いから公民館を拠点に親子であるさとの自然体験をすることを奨励しています。なお、県130年を迎えた今年、新しい県民の歌「ふるさとの空」の制作・普及などを進めています。先生は以前から、

**石井** 最近、ふるさと教育に力を入れています。富山県が、明治十六年に誕生した頃は、災害も多く、全国でも貧しい県だったといわれますが、今日では住み良さなど多くの点で、全国トップクラスの高い評価を受けるようになります。これは、幾多の先人がふるさとのために困難を乗り越えて尽力され、成果をあげていただいた賜です。こうして優れた先人を紹介するため、小中学生向けには「ふるさとやまの人物も

成長する上で大事だと思います。このため、小学生の頃から立山などに積極的に登らせるといいですね。

山折 それはいいですね。我々がもの五七調ですが、そのリズムは日本人の万葉以来の呼吸法です。その呼吸のリズムを体得する上で、山登りは絶好の方法です。山を登り、森の中を巡り歩くことは自然に生命のリズムを体得することにつながっているのです。その根本を、戦後の教育は忘れてきているとうな気がします。

に、「ひとり」立ちという意味を持たせています。こうした、日本の「ひとり」という言葉には千年の歴史があります。

### 山折

人として、成長してもらうため、何かご助言をいただきたい。



## ひとり、自然と向き合う

石井 先生は、民主主義はすばらしい

思想だが、そこから生み出された横並び平等主義には問題がある。すべての人間は平等だという考え方を必要以上に誇張した横並び平等主義が、戦後、教育の場や家庭、地域で受け継がれた。その結果、先生と生徒、親と子、各々の関係が、友だち関係になってしまい、教師や親が積み重ねてきた大切なことを次の世代に垂直の軸で教える、という使命を果たせなくなってきたと指摘されています。

山折 戦後、個性の尊厳や個の自立が

比較する比較地獄に陥り、日本社会は嫉妬社会になってしまっています。そもそも個という言葉はヨーロッパの言葉ですが、それを明治以降輸入し、特に

戦後、生半可な形で受け入れ、教育してきましたが定着しませんでした。そこで、はたと気がついたのは、日本の歴史や文化のなかにも、個にあたる「ひとり」という言葉があるということです。ああ、いい言葉だな、大和言葉の「ひとり」というのはと思いました。例えば、万葉集の柿本人麻呂の歌にある、「あしひきの山鳥の尾のしだり尾のながながし夜をひとりかも寝む」の「ひとり」。その後も、古今和歌集、源氏物語、平家物語など、人間「ひとり」どう生きるかという問題に触れ、「ひとり」という言葉が出てきます。福沢諭吉にも、「一身独立して、一国独立す」という有名な言葉があり、あの独立という言葉

人が本当に深くものを考えるには、人ととの関係、コミュニケーションも大事ですが、それだけでは限界があり、自然に向かい、ひとり深く内省し、考えを掘り下げる時間、場所が必要で、そこに光が射してくるということでしょうか。そして、そのひとりというのは、自立、自己責任という重い意味もあるのですね。

こうしたことは、結局、リーダーが育たないこともあります。本当にリーダーを育てるためには、クラブスマメイトや学校、地域のために何を犠牲にするのか、そして犠牲の量、質に応じて、リーダーに育っていくのです。

アメリカなど欧米社会では、目的意識を持つて、方法をしつかり立てて、リーダー教育を行っています。一方、戦後の日本の教育では、リーダーは自然発生的に出るものだと言う考えが前提ですが、こうした考え方ではリーダーは育たないと思いますね。

## 石井 隆一

いしい・たかかず／富山県知事。東京大学法学部卒。石川県、北九州市、静岡県などを経て、地方分権推進委員会次長、自治省財政審議官、総務省自治税務局長、消防庁長官などを歴任。04年より現職。03年から06年まで早稲田大学大学院客員教授。主著に『元気とやま塾』入門—高志の国と世界を結ぶ』『分権型社会の創造』など。

のではないかと考えています。現実の生活では、容貌、才能など平等なものは一つもありません。結局、絶えず他人と

本大震災では、全国からのボランティアが集まってきて、いろいろな奉仕活動を行っています。しかし、活動が一時的で、ボランティアとは一体何かが必ずしも考えられていないように思います。ヨーロッパのボランティアの考え方では、お金や大事な時間を、家族など、自分の一番大事なものを犠牲にし、奉仕活動を行うこととされています。しかし、いまの日本のボランティアは、自分の一番大切なものを犠牲にしない。そして、そのことが教育の全般にまで行き渡っています。

石井 グローバル化が進展するなか、次の時代を担う子どもたちには、根無し草にならないよう、ふるさとに愛着と誇りを持ち、健やかにたくましく育つてほしい。若い世代に自立した大

10

# 高志(越)の国 創造的風土



山折哲雄

やまおり・てつお／国際日本文化研究センター名誉教授。東北大学文学部卒、同大学院文学研究科博士課程単位取得。国立歴史民俗博物館教授、京都造形芸術大学大学院長、国際日本文化研究センター所長などを経て現職。富山県立山博物館顧問。専攻は宗教学、思想史。主著に「仏教とは何か」「わが人生の三原則」など。

には、豊かで美しいが、厳しさもある自然に耐え乗り越えてきた「越の国」の精神風土を忘れず、混沌の時代に「高い志」を大切にしたいという願いも込めています。最近、全国的に、あらためて、いじめ、不登校、自殺の増加が問題となっています。若い人をいかに育成していくのか、また人生80年或いは90年の時代に、いかに心豊かに、またチャレンジ精神を持つて、生きていくのかということも含め、ご助言をいただきたい。

山折 日本の風土、特に越の国の人たちは、海と山の間で、非常に狭い土地を切り開いて生き続けてきた。だから、文學、芸術、宗教も、海と山の風土に刺激されています。若き人をいかに育成していくのか、また人生80年或いは90年の時代に、いかに心豊かに、またチャレンジ精神を持つて、生きていくのかということも含め、ご助言をいただきたい。

石井 昨年7月、高志の国文学館がオープンしました。「高志の国」という名前には、豊かで美しいが、厳しさもある自然に耐え乗り越えてきた「越の国」の精神風土を忘れず、混沌の時代に「高い志」を大切にしたいという願いも込めています。最近、全国的に、あらためて、いじめ、不登校、自殺の増加が問題となっています。若き人をいかに育成していくのか、また人生80年或いは90年の時代に、いかに心豊かに、またチャレンジ精神を持つて、生きていくのかということも含め、ご助言をいただきたい。

され、そこに生み出される源泉があつたような気がします。かつて様々な地域から流されたり、旅にやつてきた人々、親鸞、日蓮、芭蕉、良寛などが、日本海側のこの地の風土に触れ、新しい発見をし、創造的な仕事をしています。このことを重点的に教えることが効果的ではないか。知事もご関心のある大伴家持や棟方志功も、富山県の風土の中で大きく成長しています。

## 親鸞の悪人正機説を考える

石井 この機会に、親鸞の悪人正機説についてお伺いします。先生の「教行信証」に関する本を拝見しますと、親鸞はどうな悪人でも救われると言つたのでではなくて、条件が2つ付いている。一つは、善き師につくということ、もう一つ

山折 この機会に、親鸞の悪人正機説についてお伺いします。先生の「教行信証」に関する本を拝見しますと、親鸞はどうな悪人でも救われると言つたのでなく、条件が2つ付いている。一つは、善き師につくということ、もう一つ

は深く懺悔すること、と言われています。そうすると、歎異抄の記録者であつた弟子の唯円が意図してかどうか、この2つの条件を結果として落したということでしょうか。

山折 唯円がなぜああいう風に書いてしまったのか。歎異抄という作品が生まれる舞台は何人かの信者や弟子に向って語っている対話の場面です。善人はやはり救われるよな、と語りかけると、みんな頷く。でも悪人だつて救われなければ、阿弥陀如来の救済の力がないことになつてしまふ。善き師につかなければならぬ、反省しなければならない、と思うけれども究極のところ、やつぱり悪人も救われるのではない。そういう迷いの問いかけ、自問自答がずーっとある。ところが、それを「善人はなおもて往生をとぐ、いはんや悪人をや」という風に言葉にしてしまうと、コミュニケーションの現場が消えて、親鸞の真意とかけ離れたところに行つてしまふ。

石井 親鸞の悪人正機説は今の時代にも相当な影響を与えているように思います。先生のように実は教行信証には、ちゃんと留保条件が2つ示されているとはつきりおっしゃっている方は、少ないよう思います。

山折 ほとんどのままです。その点は妙好人・赤尾の道宗が自らを厳しく戒めた二十一ヶ條などを拝見しますと、先生のお考えが非常に説得的に感じます。

石井 蓮如の教導の力点は親鸞の頃と異なつていてあります。悪人正機説は近代になつて流行していくわけです。結局、悪には小悪と大悪と二種類ある。ちょっとした悪さは、人間誰でもやつている。そういうことでも救われるんだという風に聞こえれば、近代人にとって、我々にとって非常に受け入れやすい。そのことを唯円は知つていた。ところが人を殺すような大悪を犯した場合に救われることが可能か、という問題については、日本人はあまり突き詰めなかつたと思います。あの歎異抄の構造は、その点では実によくできています。唯円は編集者としての能力はすごい。ただものではありません。

石井 今日は、山岳信仰、日本人の自然観、人づくりなどについて、大変有意義なお話を伺うことができ、本当にありがとうございました。今後とも、立山博物館はもとより、多方面に渡つて大所高所からのご指導、ご助言をよろしくお願いいたします。



心癒される、  
雲上の楽園へ。

とやまを観る旅。 第4回 立山弥陀ヶ原・大日平



●立山町商工観光課 TEL 076-462-9971 FAX 076-463-6611 ●立山町観光協会 TEL 076-462-1001 FAX 076-463-6611 Webサイト <http://www.tateyamakankoukyoukai.jp>  
●立山黒部アルペンルートオフィシャルガイド Webサイト <http://www.alpen-route.com/>



## ラムサール条約登録の、貴重な動植物の宝庫。

富山県立山町にある「立山弥陀ヶ原・大日平」は、2012年7月に国際的に重要な湿地を保全するラムサール条約に登録されました。

弥陀ヶ原と大日平、豊富な水量を誇る称名渓谷、称名滝までを含めた約574ヘクタールが対象となっています。一帯は標高1040メートルから2120メートルと、国内の条約登録湿地では最高所に位置しています。弥陀ヶ原と大日平は、1年のうち約半年は深い雪に覆われている豪雪地帯。

「弥陀ヶ原はなだらかな地形が続く

ため、お子さんから年配の方まで、気軽にトレッキングを楽しんでいただける場所。ホテルや国民宿舎もありますので、ぜひ、宿泊して、雲海が夕陽に染まる風景や、富山平野の夜景なども、のんびり楽しんでほしいですね」と語ります。

刻々と変化する高山ならではのダイナミックな自然の変化や、夏の可憐な花やワタスゲ、高山蝶などの昆虫や鳥。秋にはナナカマドやダケカンバが色づく見事な紅葉など、心癒される風景があります。雲の上の自然時間に、ゆつくり心を合わせてみませんか。

立山町役場商工観光課課長補佐の青木正博さんは、夏から秋にかけての弥陀ヶ原周辺の散策をお勧めしています。

立山町役場商工観光課課長補佐の青木正博さんは、夏から秋にかけての弥陀ヶ原周辺の散策をお勧めしています。

映画「おおかみこどもの雨と雪」の舞台のモデルにもなった美しい風景の中で過ごす

## 富山県「上市＆立山暮らし体感ツアーア」開催

映画「おおかみこどもの雨と雪」の舞台のモデルとなつた富山県上市町・立山町。北アルプスに抱かれた美しい風景を1泊2日でめぐる「上市＆立山暮らし体感ツアーア」を開催いたします。映画のモデルとなつた舞台を訪ね、絶景に抱かれ、人とふれあう2日間。

**開催日**

□10月12日(土)・13日(日)
□11月2日(土)・3日(日)
□11月23日(土)・24日(日)

美しい山との暮らしに憧れている、富山の自然と風景がすき、富山の人と深く触れ合う旅がしたい。そんな皆様のご参加をお待ちしています。

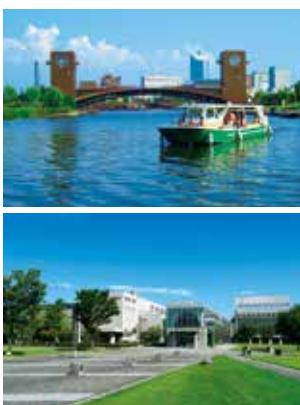


お問い合わせ:株式会社JTB中部富山支店  
TEL 076-431-7581 <http://toyamagurashi.com/>  
(共催:富山県、上市町、立山町)

## 富山で合宿しませんか?

富山県内で合宿してい  
ただく場合の、お得な制  
度をご存知ですか?

1人1泊につき800  
円を富山県が助成しま  
す。更に、県内市町村の  
助成金との併用も可能  
です(一部の市町村を除  
きます)。



合宿助成金のお問い合わせ:富山県地域振興課 TEL 076-444-4117  
助成金の詳細は、県webサイトでもご確認いただけます。

夏の合宿はもちろんの  
こと、冬の合宿も対象と  
なります。天然の生け簀

振興課までお気軽にお問  
い合わせください。  
詳しくは、富山県地域

富山な幸の日  
in 東京



### 地域資源活用・農商工連携商品フェア

富山の伝統的な技術等を活用して製作された商品等を展示。工夫を凝らし、日常生活に役立つものや心が和むインテリアにぴったりな商品をご用意します。

10月12日(土)～10月20日(日) 10:00～19:00(日・祝日は18:00まで) [いきいき富山館・情報館]

### “蜃気楼の見える街”魚津 あそびにこられ

富山県魚津市「蜃気楼が見える街」の見どころをたくさん紹介します。  
魚津漆器、木工芸品、魚津市ゆるキャラ「ミラたん」などの展示販売も実施。

10月22日(火)～10月27日(日) 10:00～19:00(日・祝日は18:00まで) [いきいき富山館・情報館]

いきいき富山館 JR有楽町駅前 東京交通会館B1F  
<http://toyamakan.jp>



コリネット／株式会社ナガエ



アルミニックひえーるタンブラー  
株式会社砺波商店



魚津漆器

## とやま美食通信

### 入善ブラウンラーメン

富山の新しいご当地ラーメン、県の東部、入善町の「入善ブラウンラーメン」をご存知ですか。これは3年前に入善町商工会青年部の有志が集まり開発したオリジナルの名物ラーメンです。

黒部川扇状地の伏流水で仕込んだ地

元の味噌ベースのスープに、入善沖の海洋深層水で仕込んだ中太麺を合わせた味噌ラーメン。エビの風味を利かせた、ちょっとピリ辛でコクのあるおいしさが評判です。富山県観光連盟が選ぶ富山のお土産ベストセレクションでは、最高賞の知事賞を受賞しました。

町内の飲食店では、各店の味で楽しむこともできます。「入善のことをもつと知つてほしい」という、熱い思いが込められた町おこしの美味を、ぜひ訪れて味わってみませんか。



入善町から新名物を発信する  
合同会社善商代表の  
上田勝也さん

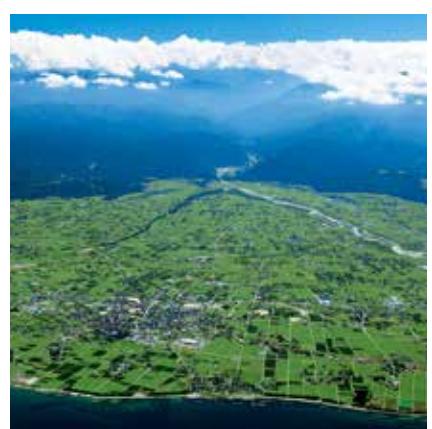
#### お取り寄せ情報

- 入善ブラウンラーメン 1袋2食入り 650円
- 入善ブラウンせんべい 1袋20枚入り 650円
- 入善レッドラーメン 1袋2食入り 650円
- 入善ジャンボ西瓜サイダー 240ml 1本250円  
(いずれも送料別)

お問い合わせ: 合同会社善商  
〒939-0626 富山県下新川郡入善町入膳3609-15  
TEL 0765-72-1988 FAX 0765-72-1998  
<http://www.zensyou.com/>  
抽選で5名様に入善ブラウンラーメン1袋2食入りを  
プレゼントします。詳細は挟み込みのアンケート用紙  
をご覧ください。

#### 入善町の新名物が続々

黒部川の扇状地として水に恵まれた入善町。商工会青年部の有志が設立した合同会社善商では、入善ならではの特産と味覚を使ったお土産品を次々に開発。入善ブラウンラーメンのほかに、入善の米とラーメンの味噌を使った入善ブラウンせんべい、地元産の唐辛子を使った入善レッドラーメン、特産のジャンボ西瓜を使ったサイダーなどを販売中。入善の新名物をご賞味ください。





表紙の写真

## 黒部市・黒部峡谷

黒部川が刻む日本一深いV字谷の黒部峡谷。黒部峡谷鉄道に乗って、峡谷の絶景を楽しんでみませんか。窓のないトロッコ電車から眺める高さ60メートルの後曳橋からの風景は、まさにスリリング。そそり立つ岩壁や歴史ある発電所、そして、青き黒部川。沿線には景勝地や温泉、露天風呂も数多く、日常から離れた大自然の中のひとときを満喫できます。

エッセー わたしのとやま

## 黒部市の思い出 俳優 黒部 進

私が生まれた家は、目の前には立山連峰、家の背戸（裏口）には三保の松原に勝るとも劣らない松林をいだいた富山湾の砂浜、左手には暴れ川と言われる黒部川が流れている。これだけ海、山、川と体感できる県も珍しいのではないかと自慢の種である。

幼少の頃、梅雨時ともなれば兄弟で熊手（こまざらい）を持ち、松林の松の根元を熊手で搔き出し松露（しようろ）を探つたものだった。この松露は、朝の御汁として食卓に上る。浜辺では地引き網漁が始まり、腰にタモを差し、手伝いをすると持ち切れないほどの魚が手に入った。もちろん、これも焼魚として食卓に登場する。夏は、海水パンツの中に「もづく」をねじ込み、これまた夕食のおかずとなつた。幼少の頃の感性を育ててくれたのは、こうした自然や地域の人たちだった。

故郷を離れて5年以上ともなると、想

い出の地は遠い彼方のようを感じ、さみしく思う。しかし、時に私は無性に故郷・富山に帰りたくなる。なぜならば、そこには人がいるからだ。親や兄弟ばかりではなく、あの時代を共有した人々に逢えるからだ。あの時代と同じ空気が流れていると思うからなのだ。鮭が生まれた川に遡上するのと同じようなものかもしれない。

富山県は海、山、川の幸に恵まれた県である。しかし、私が最も誇りたいのは県人の忍耐力や勤勉さである。その代表は富山の「売薬さん」であろう。足で全国津々浦々、背に柳ごうりを背負い、子供には紙風船を配り、使用した薬の分だけ清算する。ほんのわずかな利益の積み重ねで小を大にする。これぞ富山県人の気質なのだ。これは、いまも脈々と生きている。幼い頃、私もこの紙風船を楽しみにしていましたと、しみじみ思いだす。

くろべ・すすむ／1939年富山県黒部市出身。1962年東宝映画『暁の合唱』でデビュー。1967年初代『ウルトラマン』ハヤタ隊員役として一躍人気を集め。舞台、映画、ドラマで活躍。娘は女優の吉本多香美。

※松露（しようろ）：キノコの一種